

南島文化研究所報

沖縄国際大学南島文化研究所
〒901-2701 宜野湾市宜野湾二丁目6番1号

所長 上原 静
電話 098-893-7967



ミクロネシア連邦ポンペイ (Pohnpei) 島紀行

大城 朋子

(総合文化学部日本文化学科)

私達旧南洋群島調査団は、2月中旬、グアムからアイランド・ホッピング・ルート「島伝い便」で約3時間のミクロネシア連邦ポンペイ島を訪れた。真っ青な海に忽然と現れる巨大な環礁に浮かぶ緑豊かな島がポンペイである。長い髪の美女達が滝壺で水浴びをしている光景にこそ出会わなかったが、40以上もの川、滝や滝壺、熱帯雨林ジャングル、マングローブ林、珊瑚礁、どれをとっても映画「南太平洋」のイメージそのものであり、まさに「太平洋の花園」であった。島名の「ポンペイ」は、ドイツ時代から日本統治時代には「ポナペ」と呼ばれ、アメリカ統治以降正式名称として用いられるようになったようである。

ミクロネシア地域は、太平洋戦争後約30年間信託統治地域であったが、1979年にミクロネシア連邦「Federated States of Micronesia (FSM)」になり、現在は米合衆国と自由連合関係を維持している。連邦は、ヤップ、チューク(旧トラック)、ポンペイ、コスラエ(クサエ/クライエ)の4州から構成されていて、島の数は全部で607島(内、有人島は65島)もあるが、総面積でいうと奄美大島程度の小さな国である。人口は約10万8千人(2008年調査)で、その約3分の1にあたる約3万5千人がポンペイ島に居住している。政治・経済の中心の島がポンペイ島であるが、大統領は各州の輪番制となっていて、州の人口比に応じて政府の雇用者等の配分が公平に決められるようである。多様な民族、多彩な文化をとりまとめる知恵であろう。

ポンペイでは、夕方になると男達が集会所に寄り合い、サカウ(胡椒科の木の根をつぶしてしばったノンアルコールの飲み物で鎮静作用有り)を飲んだり、子供達が暗い中を遅くまで遊んでいたりと懐かしくなるような光景にも出会ったが、人々の暮らしは、米国からの経済援助に依存している(2004年の調査ではGDPの約45%)。マーケットに並ぶのは米国からの輸

入物が主で、通りには、グアムやサイパン、ハワイや米本土に出稼ぎにいった家族からの送金で購入した新車が異様に目立った。

主要産業の一つである水産業では、年間入漁料(カツオ漁などで外国船が支払う)が主な収入源となっていて、2009年からは中国や韓国等からの漁船員の入国が、飛躍的に増えているということであった。短い滞在期間中ではあったが、レストランで何度も船員達と顔を会わせた。

ポンペイの生活言語はポンペイ語であるが、公用語は英語であるため小学校から英語が教科に含まれる。日本の31年間の統治下時代に育った年配の人の中には日本語を流暢に話せる人がいるが、現在ではその数は少ないという。太平洋諸島地域研究所レポート『ミクロネシアの日系人』(2004年版:明石書店)によると(現地アンケートと電話帳による日系ファミリーネームの確認)、ポンペイには、4,938人(32,920人中)の推定日系人がいるということであった。1945年の終戦時点では、13,000人を超す日本人が居住していたこと、母系性社会であったこと、そして、日本人の現地社会への入り方等が要因だとしている。現在の大統領であるエマニュエル・モリ氏も日本人の血を引いているということであった。ポンペイの日常会話の中には今でも日本語から転用されて用いられている生活用語も少なくなく、通りやスーパーで、日本語で話しかけられたりと、総体的に日本及び日本人に対して親近感を持っていることが感じられた。

FSMは、2011年に独立25周年を迎えたが、それに向けて「Rainbownesia Project (いのちのリチャージ)」という環境観光立国を目指した国家プロジェクトが立ち上がっている。しかし、まだ、観光客は少なく観光の歴史はこれからという印象であった。ミクロネシアは、ゆったりと流れる時間の中で、観光・環境・経済を循環させるといふ国づくりが始まったばかりである。

2010年度（後期）会議及び議題

第3回所員会議

日 時：2010年12月13日(月) 午後4時20分～
6時

場 所：研究所会議室

報告事項

1. 第166回～171回シマ研究会の開催について
2. 第32回南島文化地域学習の開催について
3. 第22回南島研セミナーの開催について
4. 第32回南島文化市民講座の開催について
5. 久米島調査について
6. 韓国調査について
7. 台湾調査について
8. 旧南洋群島調査について
9. 福建師範大学中琉歴史関係研究所との学術交流講演会について
10. 第15回窪徳忠琉中関係研究奨励賞について
11. 第3回久米島調査報告講演会の開催について
12. 今年度発行の印刷物について
13. 事業費予算執行状況について

審議事項

1. 2011年度新規特別研究員の選定について
2. 2011年度事業計画（案）について
3. 2011年度事業費予算（案）について
4. その他

第4回所員会議

日 時：2011年2月21日(月) 午後4時20分～
6時

場 所：研究所会議室

報告事項

1. シマ研究会の開催について
2. 第15回窪徳忠琉中関係研究奨励賞について
3. 第3回久米島調査報告講演会の開催について
4. 刊行物について

審議事項

1. 2011年度所員（更新）の選任について
2. 2011年度の特別研究員の更新について
3. 2011年度の事業計画委員会の選任について
4. 次年度の地域調査について
5. その他

第4回 沖縄国際大学総合研究機構会議

日 時：2011年3月11日(金) 午前10時30分～
11時30分

報告事項

1. 2010年度各研究所事業報告
2. 2010年度各研究所予算執行状況

審議事項

1. 沖縄法政研究所所長選挙の結果について
2. 沖縄経済環境研究所所長選挙結果について
3. 2011年度各研究所事業計画（案）について
4. 2011年度各研究所所員（更新）及び特別研究員候補者（更新・新規）の選出について
5. 2010年度沖縄経済環境研究所特別研究員（新規）の選出について
6. 沖縄経済環境研究所特別研究員に関する細則（案）について

2010年度後期事業報告

第168回シマ研究会

日 時：2010年10月18日(月) 午後4時20分～
6時

講 師：大城朋子 所員（総合文化学部教授）

テーマ：「ハワイで、今なぜ『沖縄の言語と文化』
コースなのかー受講生の視点から教材
開発までー」

コメンター：兼本 敏 所員（総合文化学部教授）

司 会：崎浜 靖 専任所員

参加者：20名



報告者の大城朋子所員

第169回シマ研究会

日 時：2010年12月6日（月）午後4時20分～
6時

講 師：河名俊男 氏（南島研特別研究員・元琉球大学教授）

テーマ：「宮古・八重山諸島における過去1000年間の歴史津波と伝説の津波－1771年明和津波、1667年の地震と津波、下地島のヨナタマ伝説、多良間島のブナセー伝説を中心に－」

コメンテーター：田名真之 副所長（総合文化学部教授）

司 会：小川 護 所員（経済学部教授）

参加者：12名



報告者の河名俊男氏

第170回シマ研究会

日 時：2011年1月24日（月）午後4時20分～

6時

講 師：喜屋武臣一 氏（南島研特別研究員）

テーマ：「日米関係における基地労働の特異価値」

コメンテーター：大城 保 氏（経済学部教授）

司 会：波平勇夫 氏（南島研特別研究員・沖縄国際大学名誉教授）

参加者：20名



報告者の喜屋武臣一氏

第22回南島研セミナー

日 時：2010年10月13日（月）午後4時20分～
6時

講 師：謝 必震 氏（南島研特別研究員・福建師範大学教授）

テーマ：「福州港の発展と中琉航海交通」

司 会：田名真之 副所長（総合文化学部教授）

通 訳：陳セキゲン 氏（琉球大学ポスドク研究員）

参加者：20名



報告者の謝必震氏

第32回南島文化市民講座

日 時：2010年11月13日（土）午後1時～午後5時

場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂

テーマ：「しまくとぅばの未来－少数派の言語とその再活性化－」

司 会：西岡 敏 所員（総合文化学部教授）
（基調報告）

- 講 師：①石垣 直 所員（総合文化学部講師）
「現代台湾における現住民族母語政策」
- ②高 榮珍 氏（同志社大学言語文化研究センター）「韓国・済州島方言とその保存運動について」
- ③アンナ・ブガエワ 氏（早稲田大学高等研究所）「少数言語のインターネット活用：『音声付きアイヌ語会話辞典』を中心に」
- ④かりまた しげひさ 氏（琉球大学教授・しまくとぅばプロジェクト）「琉球方言の継承、再活性化にもっとも必要なこと」
- ⑤角田太作 氏（国立国語研究所言語対照研究系）「言語消滅危機と言語再活性化：世界各地における取り組み」
- ⑥韓 順美 氏（全南大学校教授）「韓国文学に受容された説話における『幻』と『幻想』の問題」

参加者：88名



南島文化市民講座の総会討論

福建師範大学中琉歴史研究所との協定校間学術交流講演会

日 時：2010年11月29日（火）午前9時～午後5時

場 所：福建師範大学

報告者：①田名真之 副所長（総合文化学部教授）「元文検地にみる測量技術の伝播」

②藤波 潔 所員（総合文化学部准教授）「初代福建領事任命にみる英国対中外交政策の基本認識」

③崎浜 靖 専任所員「近代沖縄の疾病地理－八重山諸島のマラリアを事例として－」



報告者の田名真之副所長

**第15回窪徳忠琉中関係研究奨励賞について
該当者なし**

第3回久米島調査報告講演会の開催について

日 時：2011年2月20日（日）午後2時～5時

講 師：近藤健一郎 氏（南島研特別研究員・北海道大学准教授）

テーマ：『久米島めぐり』の歌をめぐる教育史－久米島自然文化センター所蔵・久米島小学校旧蔵史料を中心に－

杉本信夫 氏（南島研特別研究員・沖縄国際大学非常勤講師）「久米島の古謡、

わらべうた、ウムイなどの過去と現在、
そしてこれから……」

会 場：久米島自然文化センター

参加者：50名



講師の杉本信夫氏

調査研究

久米島調査の参加者と研究テーマ

- 上原 静 所長 「久米島における屋瓦の研究」
 田名真之 副所長 「久米島の古文書調査」
 西岡 敏 所員 「久米島方言の言語地理学的研究」
 名城 敏 所員 「久米島の土壌」
 吉浜 忍 所員 「『学校日誌』に見る久米島の近代教育」
 近藤健一郎 氏 (南島研特別研究員・北海道大学准教授) 「『学校日誌』に見る久米島の近代教育」
 杉本信夫 氏 (南島研特別研究員・沖縄国際大学非常勤講師) 「久米島の古謡」
 仲原 穰 氏 (南島研特別研究員・沖縄国際大学非常勤講師) 「久米島の方言」
 崎浜 靖 専任所員 「久米島の近代歴史地理」

韓国調査

- 名城 敏 所員 「韓国济州島、珍島における自然環境調査」
 上原 静 所長 「琉球列島の高麗瓦」

- 尚真貴子 所員 「韓国(順天・麓水地域)における日本語教育の現状と課題」
 呉 錫畢 所員 「順天干潟の埋立と環境への影響分析」

福建・台湾調査

- 田名真之 副所長 「協定校間学術交流講演会及び福州調査」
 藤波 潔 所員 「協定校間学術交流講演会及び福州調査」
 崎浜 靖 専任所員 「協定校間学術交流講演会及び福州調査」
 李イニッド 所員 「台湾におけるエスニックグループの言語使用・継承に関する調査」

旧南洋群島調査(新規事業)

- 兼本 敏 所員 「旧南洋群島における言語接触の実態調査」
 大城朋子 所員 「旧南洋群島における言語接触の実態調査」
 尚真貴子 所員 「旧南洋群島における言語接触の実態調査」

2010年度人事

新規所員

- 小柳正弘 総合文化学部人間福祉学科教授
 鳥山 淳 総合文化学部社会文化学科准教授
 浦本寛史 経済学部経済学科講師
 田場裕規 総合文化学部日本文化学科講師
 石垣 直 総合文化学部社会文化学科講師
 福島賢二 総合文化学部人間福祉学科講師

2011年度 新規特別研究員

- 新里貴之 鹿児島大学埋蔵文化財調査室助教

- (考古学)
- 西岡尚也 琉球大学教育学部教授(人文地理学・地理教育)
- 正井泰夫 立正大学名誉教授(人文地理学・地図学)
- 後田多敦 海邦市民文化センター(近代史)
- 宮城弘樹 今帰仁村教育委員会(今帰仁村歴史文化センター)
- 西銘 章 南風原高等学校(考古学)
- 宮城茂雄 沖縄国際大学非常勤講師(琉球芸能)
- 高嶺久枝 琉球舞踊かなの会 高嶺久枝練場 会主(琉球舞踊)
- 高嶺美和子 琉球舞踊かなの会 高嶺久枝練場 師範(琉球舞踊)
- 我部 聖 沖縄大学・琉球大学非常勤講師(沖縄近現代文学)
- 佐渡山美智子 フリーランスネットワーク代表(日本語表現法)

2011年度会議及び議題

第1回所員会議

日 時：2011年5月23日(月)午後4時20分～6時

場 所：研究所会議室

報告事項

1. 2010年度事業報告について
2. 2010年度事業費予算執行状況について
3. 2011年度事業計画について
4. 2011年度行事予定について
5. 2011年度事業費予算について
6. 第23回南島研セミナーの開催について
7. 第172回・173回シマ研究会について

審議事項

1. 2011年度新規所員の選任について
2. 第33回南島文化地域学習の実施について
3. 第33回南島文化市民講座の開催について

4. 各種研究会の世話人(責任者)の選出について
5. 大東諸島(南大東島)総合調査について
6. 第16回窪徳忠琉中関係研究奨励賞の募集について
7. その他

第2回所員会議

日 時：2011年10月17日(月)午後4時20分～6時

場 所：研究所会議室

審議事項

1. 専任所員の退任について

第3回所員会議

日 時：2011年12月5日(月)午後4時20分～6時

場 所：研究所会議室

報告事項

1. 第172回～175回シマ研究会の開催について
2. 第33回南島文化地域学習の開催について
3. 第23回南島研セミナーの開催について
4. 第33回南島文化市民講座の開催について
5. 南大東島調査について
6. 韓国調査について
7. 台湾調査について
8. 第16回窪徳忠琉中関係研究奨励賞について
9. 第1回南大東島調査報告講演会について
10. 今年度発行の印刷物について
11. 事業費予算執行状況について

審議事項

1. 2012年度新規特別研究員の選定について
2. 2012年度事業計画(案)について
3. 2012年度事業費予算(案)について
4. 専任所員の公募(案)について
5. 研究支援助手の学外公募(案)について
6. 所長選挙の実施について

7. その他

第4回所員会議

日 時：2012年1月6日（金）午後4時20分～
6時

場 所：研究所会議室

審議事項

1. 南島文化研究所研究支援助手の任用について
2. その他

第5回所員会議

日 時：2011年2月21日（月）午後4時20分～
6時

場 所：研究所会議室

報告事項

1. シマ研究会の開催について
2. 第16回窪徳忠琉中関係研究奨励賞について
3. 第1回南大東島調査報告講演会の開催について
4. 刊行物について
5. 2011年度予算執行状況について

審議事項

1. 所長選挙の結果について
2. 副所長の選任について
3. 研究支援助手の推薦について
4. 2011年度所員（更新）の選任について
5. 2011年度の特別研究員の更新について
6. 2011年度の事業計画委員会の選任について
7. その他

第1回沖縄国際大学総合研究機構会議

日 時：2011年6月24日（金）午後1時～2時

報告事項

1. 2011年度各研究所所員会議審議結果について
2. 2010年度各研究所事業報告及び予算執行状況について

審議事項

1. 副機構長の選出について
2. 2011年度各研究所新規所員について
3. 2011年度研究所特別研究員（新規）について（産業研・法政研）

第2回沖縄国際大学総合研究機構会議

日 時：2011年7月7日（木）午後12時20分～
1時

報告事項

1. 2011年度各研究所所員会議審議結果について

審議事項

1. 産業総合研究所専任所員の募集について
2. 産業総合研究所研究支援助手の募集について
3. 沖縄経済環境研究所研究支援助手の募集について

第3回沖縄国際大学研究機構会議

日 時：2011年11月8日（火）午後12時20分～
1時

報告事項

1. 総合研究機構蔵書の管理・運用について
2. 2011年度各研究所所員会議審議結果について

審議事項

1. 南島文化研究所専任所員の退任について
2. 産業総合研究所研究支援助手の任用について
3. 沖縄経済環境研究所研究支援助手の任用について
4. 2012年度産業総合研究所特別研究員（新規）について

第4回沖縄国際大学研究機構会議

日 時：2011年12月9日（金）午後12時20分～
1時

報告事項

1. 2011年度各研究所所員会議審議結果について

審議事項

1. 南島文化研究所専任所員の募集について
2. 南島文化研究所研究支援助手の募集について

意見聴取

*各研究所所蔵図書の公開について

1. 南島文化研究所所長選挙結果について
2. 沖縄経済環境研究所所長の退任について
3. 沖縄経済環境研究所副所長の退任について
4. 沖縄経済環境研究所選挙結果について
5. 南島文化研究所研究支援助手の任用について
6. 沖縄法政研究所研究支援助手の任用について
7. 「沖縄国際大学産業総合研究所規則」の一部改正（案）について

第5回沖縄国際大学研究機構会議

日 時：2012年2月7日（火）午前11時30分～
午後1時

報告事項

1. 2011年度各研究所所員会議審議結果について

審議事項

1. 産業総合研究所所長選挙結果について
2. 沖縄法政研究所所長の退任について
3. 沖縄法政研究所所長選挙結果について
4. 産業総合研究所研究支援助手の退職について
5. 沖縄経済環境研究所研究支援助手の退職について
6. 沖縄法政研究所専任所員の退職について
7. 「沖縄国際大学沖縄法政研究所規則」の一部改正（案）について
8. 沖縄法政研究所研究支援助手の募集について

第6回沖縄国際大学研究機構会議

日 時：2012年3月12日（月）午後1時30分～
午後2時30分

報告事項

1. 2011年度各研究所所員会議審議結果について

審議事項

2011年度事業報告

第23回南島研セミナー

日 時：2011年5月16日（月）午後5時～7時
講 師：ユン・ボンモ、キム・ジュンギル、
シン・ジャンシク、ホン・ソングム

テーマ：「韓国民衆美術のアクティビズム」

司 会：鳥山 淳 所員（総合文化学部准教授）

参加者：50名



報告者のユン・ボンモ氏とキム・ジュンギル氏

第172回シマ研究会

日 時：2011年6月13日（月）午後4時20分～
6時

講 師：後田多敦 氏（南島研特別研究員）

テーマ：「『丸一店』と琉球救国運動」

コメンテーター：田名真之 副所長（総合文化学部教授）

司 会：崎浜 靖 専任所員

参加者：33名



報告者の後田多敦氏

第173回シマ研究会

日 時：2011年7月11（月）午後4時20分～6時

講 師：ピーター・シンプソン 所員（総合文化学部准教授）

テーマ：「太平洋及びインド洋の島々における米軍基地の被害」

コメンター：ダグラス・ラミス 氏（沖縄国際大学非常勤講師）

司 会：崎浜 靖 専任所員

通 訳：宮城千恵 氏（真和志高校教諭）

参加者：21名



報告者のピーター・シンプソン所員

第174回シマ研究会

日 時：2011年10月18日（火）午後4時20分～6時

講 師：仲田栄二 氏（南島研特別研究員・沖縄国際大学非常勤講師）

テーマ：「沖縄県における土地本来の森づくりの現状と方法」

コメンター：宮城邦治 所員（総合文化学部教授）

司 会：崎浜 靖 専任所員

参加者：21名



報告者の仲田栄二氏

第175回シマ研究会

日 時：2011年12月19日（月）午後4時20分～6時

講 師：澤田佳世 所員（総合文化学部准教授）

テーマ：「米軍統治の生殖のポリテイクスー戦後沖縄の生政治と家族計画への道のりー」

コメンター：宮城晴美 氏（沖縄国際大学非常勤講師）

司 会：崎浜 靖 専任所員

参加者：23名



報告者の澤田佳世所員

第33回南島文化地域学習

日 時：2011年11月19日（土）～20日（日）

場 所：伊是名島・伊平屋島

テーマ：「伊是名島と伊平屋島の自然と文化」

参加者：25名（教職員10名、学生13名、一般2名）



伊是名島の歴史を説明する田名真之副所長

第33回南島文化市民講座

日 時：2011年12月5日（土）午後1時～午後5時

場 所：沖縄国際大学7号館2階201教室

テーマ：「東アジアの説話と東アジア人の感性」

総合司会：狩俣恵一 所員（総合文化学部教授）
（基調報告）

- 講 師：①田名真之 副所長（総合文化学部教授）「源為朝の琉球渡来伝説－その形成と展開－」
 ②李 康来 氏（全南大学校教授）「高句麗滅亡論の説話的派生」
 ③赤嶺政信 氏（琉球大学教授）「キジムナー伝説の諸相」
 ④金 容儀 氏（全南大学校教授）「東アジアに広まった義湘大師と善妙の恋物語」
 ⑤上原孝三 氏（沖縄尚学高校教諭）
 「宮古の説話－三輪山伝承のこと－」
 ⑥韓 順美 氏（全南大学校教授）「韓

国文学に受容された説話における『幻』と『幻想』の問題」

参加者：49名



南島文化市民講座の総合討論

第16回窪徳忠琉中関係研究奨励賞の贈呈式並びに懇親会

贈呈式：2012年3月2日（金）午後6時～9時

会 場：沖縄国際大学厚生会館4階

受賞者：石崎博志 氏（琉球大学法文学部准教授）



受賞者の石崎博志氏

第1回南大東島調査報告講演会の開催について

日 時：3月27日（火）午後6時～9時

会 場：南大東村立ふるさと文化センター

講 師：岩田直子 所員（総合文化学部教授）

「生活圏の拡大か島の社会資源探しか－南大東島の暮らしにおける社会福祉

のあり方を考えるー」

杉本信夫 氏 (南島研特別研究員・沖縄国際大学非常勤講師)

「琉球諸島に含まれる南大東音楽の特徴について」

司 会：崎浜 靖 専任所員

参加者：20名



講師の岩田直子所員

南大東島調査の参加者と研究テーマ

上原 静 所長「沖縄諸島における先史・古代の考古学的調査」

田名真之 副所長「南大東島の歴史的研究」

小川 護 所員「南大東村におけるサトウキビ生産の現状と課題」

吉浜 忍 所員「南大東島の沖縄戦」

澤田佳世 所員「南大東島における人口・家族変動と国際結婚」

岩田直子 所員「南大東島における社会福祉政策」

稲福日出夫 所員「大東島で燐鉱石を調査した恒藤現隆博士の足跡をたどる」

崎浜 靖 専任所員「南大東島の自然と歴史」

杉本信夫 氏 (南島研特別研究員・沖縄国際大学非常勤講師)「八丈系芸能 (大島太鼓・角力甚句等) の変容」

近藤健一郎 氏 (南島研特別研究員・北海道大学准教授)「南大東島の学校教育研究」

韓国調査の参加者と研究テーマ

上原 静 所長「琉球列島における高麗瓦の系譜研究 (窯業技術を通しての文化伝播)」

田名真之 副所長「古琉球における琉球ー朝鮮関係の研究」

澤田佳世 所員「韓国・巨済島の人口変動と多文化家族ポリティクス」

名城 敏 所員「韓国巨済島の自然環境について」

尚真貴子 所員「韓国 (巨済島及び釜山) における日本語教育の現状と課題」

呉錫畢 所員「巨済島における経済特区の状況について」

台湾調査の参加者と研究テーマ

兼本 敏 所員「台湾における国際性ー借詞の観点よりー」

崎浜 靖 専任所員「台湾における国際性ー地理的景観の変容ー」

福建調査の参加者と研究テーマ

上原 静 所長「中国福建省における窯業及び建築物関連調査」

田名真之 副所長「中国福建省における琉球関連史跡に関する調査研究」

藤波 潔 所員「中国福建省における英国領事館所在地に関する調査」

訃 報

南島研特別研究員として、南島研の事業に貢献された窪徳忠先生が、2010年10月2日に逝去されました。97歳でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

南島研における事業活動を振り返る

－専任所員の立場より－

専任所員 崎浜 靖

私の南島文化研究所との関わりは、1995年度に開始された宮古島・平良市総合調査に参加した時からである。かれこれ17年になる。

南島研において手薄であった地理学研究者の総合調査への参加を促され、当時、所長であった来間泰男先生や専任所員の仲地哲夫先生、宮古郷土史研究会会長の仲宗根将二先生ほか、多くの所員・特別研究員と宮古島を歩いた。この宮古島での総合調査への参加が、私にとっての南島研「入門」となった。

2000(平成12)年には、縁あって南島文化研究所の専任所員を務めることになり、「期待」と「不安」の中で、仲地哲夫先生から事務を引き継ぐことになった。

この頃の南島研の地域研究は、琉球列島を中心とする調査研究から、その周辺地域との比較研究を推進する動きを模索していた。台湾における地域研究は早くからスタートしていたものの、それを加速させたのは1997年に韓国全南大学校湖南文化研究所との学術交流協定を結んで以後である。それから2002年には、福建師範大学中琉歴史関係研究所との学術交流協定が締結されると、中国研究者との学術交流も徐々に増えていった。現在、これら両研究所との学術交流は、講演会やセミナー、市民講座の開催に繋がり、南島研の定例事業として定着している。

ところで、私が務めた12年間は、琉球列島の周辺地域との比較研究が進展した反面、琉球列島内の地域研究が衰退してきたことは否めない。とりわけ、共同研究や学際的研究が減り、南島

研本来の研究スタイルに「黄信号」が灯っている状況である。これについては私の能力不足に加えて、各所員の多忙化の流れが大きく影響している。多くの所員は、南島研・研究費による調査を行いつつも、学内の特別研究費と学外研究費との兼ね合いで調査を進めている。ところが、その成果は南島研の出版物に反映されない状況がある。近年の大学教員をめぐる多忙化の流れが、地味な研究所の印刷物の発行に影響を及ぼしているともいえる。

次に、事務組織の動きをみると、沖縄経済環境研究所の設置とセットに事務組織が統合された(沖縄国際大学総合研究機構の設置)。現在、南島研においては、事務組織の統合により、各種研究会や市民講座、窪徳忠賞などの大きな行事においては、研究支援課職員の連携によって、専任所員の事務負担が大幅に軽減されている(統合前の南島研の事務組織は、専任所員以外に課長1名、派遣職員1名が定員)。しかし、一方で事務組織が大きくなったため、外来者や特別研究員の方々が「気軽」に出入りすることが出来ない状況もある(これまでは専任所員や所長が個別に対応し、情報交換することが多かった)。

また、新しい事務組織(研究支援課)では、各研究所の多様な事業に対して、職員が4研究所の事務を横断して対応している状況がある。そのため南島研においては、とくに文化事業に精通した職員の安定的な配置が必要である。

2012年4月からは、専任所員として12年務めた私に代わり、研究支援助手の儀間淳一氏(民俗学専攻)が配属されることになった。所員及び特別研究員の皆様には、これまで以上に南島研の事業運営にご協力をお願いしたい。

編集後記

今年度もシマ研究会、市民講座、中国・韓国研究所との学術交流、新規には南洋群島調査、県内では大東島調査が新たなスタートをきるなど、実に多くの研究と出会いがありました。ひとえに関係者の取り組みによるもので、お礼と感謝を申し

上げます。これら活動は一つ一つ記録していきたいと思います。

最後に、本研究所の要的存在でありました崎浜靖専任所員には、退任に当たっての思いを寄せてもらいました。長い間大変ご苦勞様でした。(上原)